

プロフィールリスト

1. 病名	Infection with <i>Gyrodactylus salaris</i> ギロダクチルス症	
2. 病原体	<i>Gyrodactylus salaris</i>	
a) 分類	Phylum: Platyhelminthes (扁形動物門) Class: Monogenea (単性類) Order: Monopisthocotylea Family: Gyrodactylidae Genus: <i>Gyrodactylus</i>	
	b) 形態	—
	c) 特徴	・胎生 ・絶対寄生体 ・卵, 休眠および特別な伝播ステージは無い。 ・中間宿主は無い。
3. 地理的分布	・ヨーロッパ地方: ロシア, スウェーデン, ノルウェー(野生の大西洋サケ) イタリア, ポーランド, マケドニア, ルーマニア(養殖場)	
4. 宿主	・大西洋サケ (<i>Salmo salar</i>) ・ニジマス (<i>Oncorhynchus mykiss</i>) ・ホッキョクイワナ (<i>Salvelinus alpinus</i>) ・北アメリカカワマス (<i>Salvelinus fontinalis</i>) ・Grayling (<i>Thymallus thymallus</i>) ・ブラウントラウト (<i>Salmo trutta</i>) ・北アメリカレイトラウト (<i>Salvelinus namaycush</i>) ・北アメリカカワマス (<i>Salvelinus fontinalis</i>)	
5. 発生情報		
a) 潜伏期間	—	
b) キャリアー	全ての感受性魚種がキャリアーとなり得る	
c) 感染経路	・水平感染。魚の移動, 導入水, 病魚との接触 ・淡水及び汽水域で感染。	
d) ベクター	—	
e) 蔓延状況(死亡率, 罹患率など)	・大西洋サケの罹患率及び死亡率は無処理であれば100%に達する。 ・大西洋サケでの稚魚, 幼魚でのみ死亡。 ・系群により感受性が異なる。 ・大西洋サケ以外の魚種では, 罹患率, 死亡率ともに低い。	
f) 感染ステージ	・全ステージで感染 ・死亡は稚魚及びパールマークステージ。	
g) 感染要因	・0-25°Cで寄生虫生残。 ・淡水中でも生残できるが, 通常は5-6pptの塩分濃度が必要(生殖の為) ・塩分耐性は温度による。 塩分濃度 10, 15, 20 ppt で 280, 78, 42 時間 (1.4°C), 72, 24, 12 時間 (12°C)	
6. 症状		
a) 臨床症状	・初期症状: 底に体をこすりつける。 ・やがて粘液による体色の灰色化と鰓腐れ。 ・病魚は遊泳が緩慢で, 流速の弱いところに滞留。 ・感染後期: 鰭の肥厚により背鰭, 胸鰭の白色化 ・ミズカビの二次感染。 ・顕微鏡観察: 把握器の形態により <i>G. salaris</i> を <i>G. teuchis</i> , <i>G. thymalli</i> から分類	
b) 組織検査	—	
7. 検査法		
a) 標的器官	・鰭, 体表, 鰓 (鰓が少ない) ・魚種により出現場所の出現率が異なる。	
b) 簡易検査法	・ウェットマウント法	
c) サーベラン	・顕微鏡観察	
d) 確定診断	・顕微鏡観察とシーケンス	
(参考) ウイルス分離		
培養細胞/分離	—	
培地	—	
培養条件	—	
CPE/コロニー性状	—	
その他	—	
(参考) PCR		
DNA 抽出法	市販のDNA抽出キット	
プライマー, 産物サイズ	・ITS-region A: 5' -TTT-CCG-TAG-GTG-AAC-CT-3' B: 5' -TCC-TCC-GCT-TAG-TGA-TA-3' 1300 bp or ・Mitochondrial cytochrome oxidase 1 (CO1) gene A: 5' -TAA-TCG-GCG-GGT-TCG-GTA-A-3' B: 5' -GAA-CCA-TGT-ATC-GTG-TAG-CA-3' ・PCR終了後, シーケンスを行い検索する。	
プロトコル	・ITS 95° C 5分 94° C 1分, 50° C 1分, 72° C 2分 (x 30サイクル) 72° C 7分, 4° C 保存 ・CO1 95° C 5分 95° C 1分, 50° C 1分, 72° C 2分 (x 35サイクル) 72° C 7分, 4° C 保存	

8. 対 策	
a) 殺菌・滅菌方法	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥に弱い。 ・pH5以下で数日生残。アルミニウムや亜鉛に関連した低pH(5.1-6.4)では、宿主(アトランティックサーモン)と比べ感受性あり ・高濃度食塩水、ホルムアルデヒド、イソジンや塩素などによる卵、稚魚消毒
b) ワクチン	—
c) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・0-25°Cで生残。 ・凍結に対する耐性は無い。
9. 発生事例	—
10. その他	—

本記載は最新版(2014年8月時点)のOIEマニュアルによった。